

## 九州ブロッククラブネットワークアクション 2017 開催報告

日 時： [1 日目] 平成 29 年 11 月 11 日（土） 13：00 ～ 17：30  
[2 日目] 平成 29 年 11 月 12 日（日） 9：30 ～ 12：00

会 場：沖縄県立武道館

内 容：テーマ：「地域課題の解決・発展に向けた事業企画」

[1 日目]

1. 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」
2. オリジナルプログラム：「地域課題の解決・発展に向けた事業企画第一部」

[2 日目]

1. オリジナルプログラム：「地域課題の解決・発展に向けた事業企画第二部」
2. 日本体育協会からの情報提供

### 【概要】

今回、九州ブロックでは、「地域課題の解決・発展に向けた事業企画」をテーマに開催し、2 日間のプログラムを通して事業企画を立てることを目的としたオリジナルプログラムを展開しました。

1 日目に開催した、全ブロック共通のテーマを行うこととしている共通プログラムでは、昨年の障がい者スポーツに関する基礎的な情報提供や受入事例を紹介したことに引き続き、本ネットワークアクションの参加クラブが、障がい者の受入に向けた取組を促進するため、今年度は知的障がい者をメインテーマとし、沖縄県障がい者スポーツ協会、おきなわ自立支援センターの方に登壇いただき、情報提供とワークを行いました。

### 【内容】

[1 日目]

#### 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

始めに、沖縄県障がい者スポーツ協会の平安氏より、団体の概要や指導資格について説明をいただき、その後ワークシートに沿って、「知的障がい者が総合型クラブのスポーツ教室に参加したい」と問い合わせがあったことを想定したワークを行いながら、おきなわ自立支援センターの田中氏より、知的障がい者との接し方について、また知的障がい者が置かれている背景や実情をご説明いただきました。

参加者からは、「障がい者スポーツを取り入れようと思ってはいるものの、実際に行うとなった時、どのようなところに相談をすればよいのか参考になった」との声や、「同じクラブ同士で悩みを共有できた」との声を聞くことができました。

プログラム導入時には、進行役の浅井実行委員長より、参加者に対して、実際に、障がい者スポーツを取り組んでいるクラブがあるかを聞き取るミニアンケートを行い、プログラムを進めている中で、障がい者スポーツを取組んでいるクラブから事例を簡単に発表してもらうなどし、クラブにとって、よりリアルな情報共有の機会にもなりました。

## オリジナルプログラム「地域課題の解決・発展に向けた事業企画 第一部」

全体コーディネーターに、ふくおかNPOセンターより古賀 桃子氏、グループコーディネーターとして、NPO 法人しいだコミュニティ倶楽部 中山 育美氏、NPO 法人 A-life なんかん 西田 由実氏、NPO 法人 都農 enjoy スポーツクラブ 河野 景子氏、NPO 法人 七瀬の里 N クラブ 小井手 恵子氏を招き第一部を開催しました。始めに、コーディネーターより企画の立て方について説明いただき、その上でグループ、個人毎にそのノウハウを実践する形を取りました。

事前に事業企画経験の有無について調査をした上で班編成を行っていたことから、コーディネーターだけに頼ることなく、グループ内でもアドバイスや情報を共有しながら取り組んでいました。

[2日目]

## オリジナルプログラム「地域課題の解決・発展に向けた事業企画 第二部」

1日目に引き続き、同じコーディネーター、同じグループメンバーのまま第二部を行いました。第二部は総仕上げとして、この2日間で作り上げた事業企画を参加者の前で何人かに発表していただきました。

今回のネットワークアクションをきっかけに、新たな事業展開の為、県の枠を超え、県外のクラブと事業展開を広げていく等の案も発表され、盛り上がりを見せながら幕を閉じました。

### 【まとめ】

今回、開催地が沖縄県ということで、当初は参加者が少なくなることも危惧されていましたが、開催前に、沖縄県総合型クラブ連絡協議会の皆様が、九州各県を回り、積極的な広報を行っていただいたこともあり、結果的に160名近くの人数が一同に会してネットワークアクションへ参加・運営することとなりました。

オリジナルプログラムにおいては、人数が多かったことで必然的にグループが多くなり、コーディネーターへの負担も懸念されましたが、グループ編成の際に、事業企画経験の有無を考慮したことから、グループ内で助言しあう、もしくは意見交換を行う等の場面も見受けられました。その一方で、まだクラブに関わり始めたばかりの方や、両日参加することのできなかつた参加者やグループ等では、もう少しグループ内で話し合いや情報共有をしたかつたとの声もありました。

本ネットワークアクションに参加した方が、ネットワークアクションを通じて何かを得て、普段のクラブ運営に活かすということももちろん有益であります。今回は、参加者が一つの企画書を作り上げることで、参加者は企画を立てるノウハウや取り組むきっかけを得て、その方法論をクラブに持ち帰ることで、参加することのできなかつたクラブ関係者への波及効果も期待されます。さらには、その持ち帰った事業企画を実現するか否か、実現の可否だけでなく、実現の為にどんなことが必要なのか改めて考えるきっかけとなり、全く新しい事業企画を産み出すヒントとなるかもしれません。今回のネットワークアクション参加者だけにとどまらず、クラブ全体へ良い連鎖を作るきっかけになったのではないかと思います。

また今回、沖縄県障がい者スポーツ協会や手動車いすサッカー団体のご協力のもと、会場に車いすサッカーを体験することのできるスペースを設け、空き時間に参加者が自由に体験できる場を提供しました。座学だけにとどまらず、実際に自分自身が体験することで、より障がい者スポーツへの関心を高め、また取り組むことへのハードルを下げる機会となったのではないかと思います。

手動車いすサッカーを体験中



事業企画（個人ワーク）



事業企画（個人ワーク）



事業企画（個人ワーク）



事業企画（個人ワーク）



次期開催県（熊本県のPR活動）



スポーツくじ

